

# 石は語る

— 祈りと想い —

会期 平成14年 11月17日(日) ~ 平成15年 2月23日(日)

三島市郷土資料館 (市立公園 楽寿園内)

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内 TEL:055-971-8228

■開館時間 9:00~16:30

■休館日 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始(12月27日~1月2日)

主催 富士・沼津・三島3市博物館連絡協議会

## サイノカミ

村境にいて村に災厄が入ってくるのを防ぐ、また、子どもたちの守り神であるともいわれるのがサイノカミなどと呼ばれる道祖神です。ムラに入ろうとする災難や疫病、農作物の害虫などを防ぐ役割を与えられているためか、ムラの入り口や出口に置かれている例が多く見られます。

サイノカミの形は、1人の神様を彫った単体道祖神、2人の神様が並んだ双体道祖神、「道祖神」、「佐倍之加美」などの文字を彫ってある文字碑など、いくつかの種類があります。

単体は伊豆地域におもに分布するもので、双体は信州から富士・富士宮にかけて分布しています。富士市のなかでも伊豆よりである旧吉原市域では半数が単体道祖神であるのに対して富士宮と接する旧鷹岡町域では半数が双体道祖神です。ちょうど富士市が、伊豆の単体から信州の双体へと分布が移り変わっていく地域になっています。



三島市安久



三島市佐野。どんど(ん)焼き前日にはお飾りが供えられる



沼津市大平政戸



沼津市大平山口公民館前



左：富士市今泉の文字碑のサイノカミ。「道祖神」と刻まれている。文字碑は半数以上に年代が刻まれており、比較的新しいものが多い。

右：富士市厚原のサイノカミ（双体道祖神）。上部に元禄14年（1701）の年号が刻まれており、年号が入っているものでは富士市内で最も古い。

## どんど焼き

サイノカミの祭りには、正月の14日に行われるどんど焼きがあります。その時にサイノカミを火にくべてしまう風習が現在でも富士市柏原地域などで行われています。オンベコンベと呼ばれるこの行事では、焼いた団子を自分が食べる前にサイノカミにはりつけたりします。体の悪いところを背負っていってもらう、頭がよくなるようお願いする、など様々な祈りがサイノカミにこめられます。



正月飾りといっしょにどんど焼きの火にくべられる（富士市柏原地区）



団子をはりつけられたサイノカミ

## 「庚申」とは？

庚申とは、干支の組み合わせの一つで、これは十干（甲乙丙丁戊己庚辛壬癸）と十二支（子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥）を甲子、乙丑のように組み合わせると60通りの組み合わせができます。そのうちの 하나가「庚申」で、「かのえさる」「こうしん」と読みます。これを暦に当てはめると、60日ごとに庚申日が訪れ、60年ごとに庚申年が巡ってきます。この庚申年の庚申日に建てられた塔が多数あります。

「還暦」というのは、60年の干支の組み合わせが一巡したことを意味しています。



沼津市松長

## 「庚申信仰」と「庚申塔」

時々私たちは「虫の居所が悪い」とか「腹の虫が治まらない」などと言うことがあります。これは人間の体内には生まれながらにして三匹の虫（三尸）がいるという中国の古い教えに基づいたものです。また、各地に伝わる『庚申縁起』にも、「庚申日の夜、人々が眠っている間に体を抜け出した三匹の虫が天に昇り、その人の善悪を天帝に告げる。そして報告を聞いた天帝は、罪の軽重に応じて寿命を縮め、時には命を奪ったりもする。その災いから逃れるためには、善をなし悪を辞め庚申の夜には香華や飲食を供え真言を唱えて仏を念じ眠らない。更に六度の庚申の夜を無事勤めたら願いが叶う」と説かれています。

そもそも庚申信仰は、庚申の夜に無病息災を願い眠らず過ごす

と言う平安貴族社会の風習が鎌倉時代の武家社会を経て少しずつ民衆の間に浸透し始めて、室町時代には庚申待をする講が結ばれ、月待講に倣った庚申塔造立が始まりました。庚申待の行事や庚申塔の造立は、人の延命招

福にあります。村の講中の者が徹夜で酒食をとることから村民の連帯につながりました。また江戸時代になると、その風習は全国規模で広まり、民間信仰の中心的存在の一つと成りました。

室町後期の庚申待板碑には、阿弥陀仏を本尊とする物が造られましたが、江戸時代には悪疫を調伏する青面金剛や道案内に関わる猿田彦神などを本尊とするようになりました。三猿が彫られるのは「見ざる・聞かざる・言わざる」という謹慎態度を示したようです。いろいろな種類がある庚申塔ですが、路傍やあるいは集落や田畑を見下ろす小高い台地にお祀りされるケースが多かったようです。



富士市今泉 十王子神社前

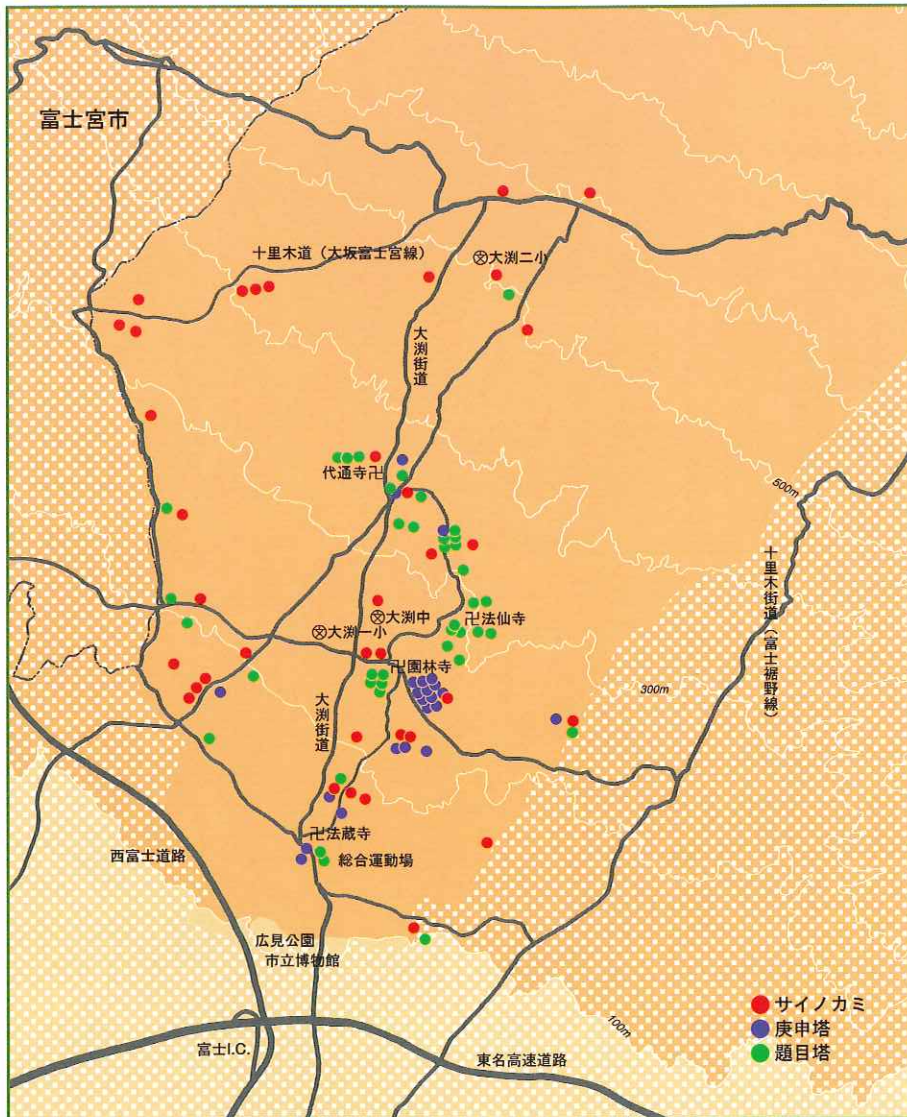


三島市笹原新田

## 富士・沼津・三島の石造物

三市における特徴的な地域において、サイノカミ・庚申塔・題目塔・唯念碑などの石造物の分布を紹介します。

### 富士市大淵地区



富士市は、南に駿河湾、北に富士山をいただいて三角形のような形をしています。駿河湾に面した底辺に対し、富士山に向かってのびる頂点の部分にあたるのが大淵地区です。地域の最も南の標高がおおよそ100メートルの高さにあり、北東にある富士山頂の方向へ傾斜が続いている地形です。

大淵地区では、石造文化財の数が富士市のなかでも非常に多い地域です。傾斜地であるため水に乏しいことから、水神が祀られたり、馬の供養と結びついているといわれる馬頭観音も非常に多く建てられています。坂の多い地域では、運搬の動力として昭和30年代頃まで馬がたくさん飼育されていたようです。

また、現在4か所ある寺院はすべて日蓮宗で、富士市内でも特に題目塔の分布が濃くなっています。

### 沼津市大平地区

沼津市大平地区は、伊豆田方平野の一角に位置しており、かつての集落は三分市を半円の中心にしてそれを取り巻くように分布しています。

集落を取り囲んでいる山々の中で、ひととき美しい山容をみせているのが、大平のシンボルとも言える鷲頭山です。この中腹には平維盛自刃の地と伝えられる、「中将岩」があり、現在も村人によってお祀りがされています。

大平は、農業を生業としていますが、終戦まで石切りの村でもありました。その為、多くの石造物が存在しています。また、悪霊・悪疫の侵入に対して敏感な地域だったようで、疫病流行の時期にさしかかるとさまざまな行事が行われていました。その一つの例として辻に祀ってある、サイノカミに「オンボ・コンボ」と言って三晩に渡って子供が流行病にならないように願いを掛けるものがあります。

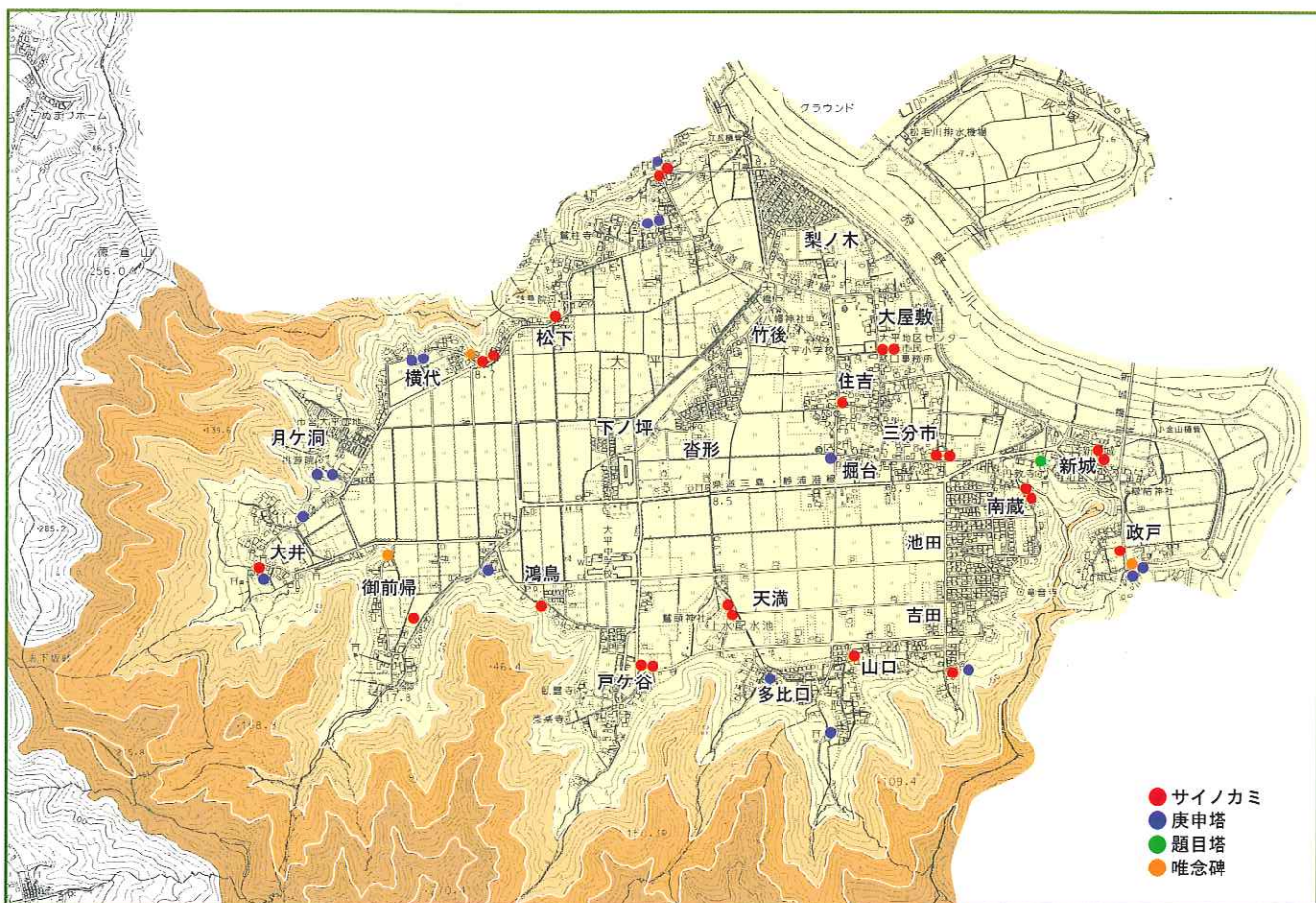
各集落の辻には、丸味を帯びた一筆書きで「南無阿弥陀仏」と書かれた唯念さんの大きな石塔もあります。大平はかつて唯念信仰（大念仏講）が盛んに行われるなど、信仰の厚い地域でもありました。



### 三島市佐野地区

三島市は、サイノカミ信仰に厚い地域です。裾野市と境界を接する佐野地区は、三島でも特にサイノカミの多い地区で、昔ながらの細い道のかたわらにたたずんでいます。

箱根山麓一帯は、昔ながらの風俗習慣がよく残されています。とくに集落や、家に関する信仰は、ほとんど原形のままで継承されてきているようです。佐野地区は、かつての箱根路の一環だったためなのか、または境川をはさんで駿河国に相対する地理的なことに由来するのか、数多くのサイノカミが祀られています。単身像や双神像、丸彫り、浮き彫りといった、さまざまな型の道祖神が、行く先々の道端に見られます。



## 唯念碑と念仏講

静岡県東部から神奈川、山梨にかけて、「南無阿弥陀仏」と独特の太文字で彫られた大きな名号石碑が、集落の入口などに数百基建っています。「唯念名号碑」とよばれるものです。

唯念上人は寛政2年(1790)に肥後国(熊本県)の八代に生まれ、17歳で出家した後諸国を行脚します。天保元年(1830)に奥の沢(小山町)に籠もり、厳しい修行を積みました。

唯念上人は伊豆、駿河の各地を行脚し、自ら開いた悟りを語り、教えを広めて回りました。上人の歩いた村々では「念仏講」が組織され、名号を書き与えて碑を刻みました。1mから3mにもなる堂々たる碑は信者達の信仰の証ともいえます。



北豆大念仏講(三島市中)

各集落の念仏講はたいがい12日に催されますが、一部の地域では大念仏講という組織でつながっていました。三島を中心とした地域では錦田・中郷(以上三島市域)・函南町の24集落を、毎年2月から毎週巡り、7月24日に中村(三島市)の手無地藏堂でその年は終了となります。

大念仏講では祭壇に唯念書による念仏名号のほか、菩薩絵、三十三番札所、明治以後の戦死者、絵曼荼羅などを飾り、厨子に入った唯念像に膳・団子などを備えました。お念仏が終わると、団子を分け、弁当でねぎらったものです。



沼津市柳沢の唯念碑

## 題目塔

鎌倉時代、現在の富士市・富士宮市・芝川町の旧富士郡では、日蓮の弟子たちによって大石寺・北山本門寺(富士宮市)、西山本門寺(芝川町)が創建されました。実相寺(富士市)も含めて日蓮宗の拠点として布教活動が活発となり、現在でも日蓮宗寺院の割合が、全国的にみても非常に多い地域です。日蓮宗の浸透にともなって、富士宮市に接する大淵地区など富士市の北西部に、題目塔が多く建てられています。

しかし、日蓮宗寺院の分布と題目塔の分布の濃さは必ずしも重ならないため、寺院を中心とした信仰形態というよりは、題目講などの地域に根ざした信仰に支えられていたようです。現在もなお、日蓮の命日にちなむ毎月12日などに題目講を行っている地域があります。

題目塔の形に多くみられるのは、「南無妙法蓮華経」の文字のはらいの部分長くのばした「ひげ題目」と呼ばれる題目を刻んだものです。題目講中によって建立されたものが多く、五百年、五百五十年などの日蓮の遠忌ごとにも建立のブームが訪れています。

現在までに富士市内で確認されている題目塔は198基で、年号が確認できる175基のうち最も古いものは寛文5年(1665)の建立です。



富士市内で最も古い題目塔 富士市厚原



文政から天保年間にかけて十数基の道しるべを建てた室伏半蔵が建てたもので、題目とともに道しるべも刻まれている。富士市久沢

## 石切・石丁場

静岡県の石は伊豆半島一帯に良質の安山岩、凝灰岩を産出し、東京を中心とした大消費地と、海運による便のよさから「伊豆石」と呼ばれて昔から多くの石材を供給してきました。文献から、過去の産地を調べてみると、およそ90ヶ所にも及ぶ丁場が存在しており、いかに石材業が繁栄していたかが分かります。しかし、交通の発達と代替資材の開発などに伴って多くの石丁場は廃れてしまいました。現存する石材としては緑色凝灰岩りよくしよくぎょうかいがんが多く、伊豆長岡町から産出する長岡青石（戸澤石）と韮山町から産出する新興の若草石が有名です。



韮山町 若草石

### 三島市の石丁場

三島市の市街地北側一帯は富士山の噴火によって流出した厚い溶岩層に覆われています。この中にはきめ細かく堅固な石層があり、これを「ミシマイシ」と言って切り出していました。丁場の小字名をとって「小浜石」こはまいし「一丁田石」いちちやうだいし「小堰石」こせきいしとも別称されていました。



三島市文教町

これらの石を本格的に切り出すようになったのは、比較的新しく、大正年間、2つの重砲兵連隊が設置されたことによります。

現在の日本大学東側付近の溶岩の撤去を請け負った中川石屋は、きめ細かい三島石にあたり採掘を始めたと言います。それ以後、各所で採石されるようになりました。

三島石は石垣用のケンチ石や石塔に使われました。また粉挽き用の石臼にも適した堅さでした。

現在、三島石を切り出した各丁場は埋め戻され、住宅地などにかわってしまいましたが、三島石を用いた石垣・石橋などを見ることが出来ます。

### 沼津市の石丁場

沼津市南部に位置する静浦・内浦・西浦の三浦地区は海岸に面した地域で、主に漁業を生業としていました。しかし、漁業は生計が不安定なので、副業として石切りを行っていました。

静浦地区では材質が柔らかい凝灰岩の切り出しが盛んに行われていました。これは「江の浦石」とよばれ、戦前の頃建築用材として売り出されていました。現在でも県道から切り跡を見ることが出来ます。

内浦地区では淡島で石を切り出していたことが、重寺の旧家室伏家の古文書から分かります。それによると淡島石の切り出し先は江戸初期には江戸城、初期後半からは駿府城・久能山が多かったようです。現在でも淡島から海中をのぞくと、海中に沈んだ石材を見ることが出来ます。

西浦地区は明治期に西浦村に統合されるまで君沢郡に属し、9カ村で形成されていましたが、そのうちの古宇村こいう、足保村あしほ、久料村くりょう、江梨村の4カ村は江戸時代に、尾張家6ヶ所、水戸家1ヶ所、阿波松平家2ヶ所の合計9ヶ所が大名衆の石丁場となり、石を切り出して主に江戸城の修築に使用されていました。現在は丁場の名前が地名として残るのみになり、ミカン畑などに姿を変えています。



西浦足保 林丁場



西浦足保 朝日丁場

# 石造物の種類と見方

石造物（石造美術）と一口に言っても多種多様ですが、ここでは石塔と石仏について、それぞれ静岡県東部で見られる主なものを紹介します。

## 石 塔

【五輪塔】5つの輪からできていて、5つの輪は、上から、空・風・火・水・地と呼ばれ、形は上から、宝珠形・半円形・三角形・円形・方形になっています。

【宝篋印塔】現世利益のため、年毎に多数の小塔を作って宝篋印陀羅尼經を納めた塔なので、「宝篋印塔」と呼ばれています。

【層塔】屋根（笠）の層を三、五、七、九と奇数に重ねた石造の塔を層塔と呼んでいます。中国から伝わった当時は、經塔として建立されることが多かったのですが、鎌倉時代になるとお墓兼用の石塔として使われることが多くなりました。

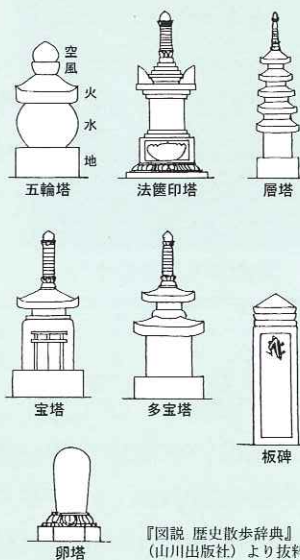
【宝塔】宝塔の「宝」は、塔の美称です。この塔は、大日如来の三昧耶形で、空海（弘法大師）が、中国から伝えたものだといわれています。

【多宝塔】宝塔に裳階を着けたもの。1層が宝塔、2層が多宝塔となります。

【卵塔（無縫塔）】他の塔のように笠がなく卵形をしており、縫稜がないので無縫塔とも呼ばれています。禅宗の僧侶に多く用いられました。

【板碑】卒塔婆の一種として作られ、今ではお墓としても使われています。供養のために作られたので、現在の板卒塔婆のように、お墓の近くに建てられました。

【その他石塔】石幢や笠塔婆などがあります。



『図説 歴史散歩辞典』(山川出版社)より抜粋

## 石 仏

【地藏】仏教の「地藏菩薩」の略です。修行僧の姿で左手に宝珠、右手に錫杖を持つ形が広く流布しました。あらゆる信仰の対象ですが、養の河原で地藏が子供の庇護をすると説かれることから、特に子どもに関する御利益を願うようにもなりました。発展した形として、子安地藏・六地藏・延命地藏・勝軍地藏などがあります。

【庚申塔】庚申信仰から作られた石塔で、多くの場合逆立つ髪と6本の腕を持った憤怒相の青面金剛を中心に彫られています。また、「見ざる聞かざる言わざる」の三猿、日輪と月輪、鶏、足の下に邪鬼、大日如来を配したもの、単に「庚申塔」という文字のみを彫ったものなどもあります。

【道祖神】道祖神は、別名サイの神ともいわれ、村境などに立って疫神、悪霊の集落への侵入を防ぐ神でした。形態としては、単神体の立像や座像を丸彫りしたものや切石の片面に双体や単体の神像を浮き彫りしたものなどがあります。

【名号塔】名号塔は自然石や切石に阿弥陀如来の名を称える「南無阿弥陀仏」という6文字を刻んだものです。行者の活動の跡として、各行者独自の筆跡の六字名号碑が供養塔として残されており、唯念・徳本名号塔などがあります。

【題目塔】題目塔は名号塔同様自然石や切石に「南無妙法蓮華經」の7文字を刻んだものです。別名「髭題目」ともいわれ、各字の筆先が髭のように跳ねる日蓮宗独特の書体が特徴です。

【馬頭観音】馬に関係する職業の人々に信仰され、馬の供養などの目的で、馬捨て場、峠や山道の難所などに建てられています。主な特徴は頭上に馬頭をのせた忿怒相です。

【その他石仏】仏足石・釈迦如来などの如来像、聖観音などの観音菩薩像、不動明王などの明王像、弁才天などの天像、念仏塔、順礼供養塔、日待塔、月待塔、写経塔、読誦塔、廻国塔、万霊塔などがあります。



『石仏・石神調査報告書』(沼津市教育委員会)より

※この他の石造物として、石灯籠、常夜塔、手洗石、結界石、石鳥居、狛犬、碑、力石、石猿、切支丹石造物などが各地に見られます。

参考文献：『日本石仏事典』『石仏調査ハンドブック』庚申懇話会編／雄山閣出版

「石は語る」  
～祈りと想い～

2002.11.17発行

- 富士市立博物館 富士市伝法66-2 広見公園内 TEL 0545-21-3380
- 沼津市歴史民俗資料館 沼津市下香貫島郷2802-1 TEL 055-932-6266
- 三島市郷土資料館 三島市一番町19-3 楽寿園内 TEL 055-971-8228